

宗教と臨床現場の関わりを 考える

関西医科大学附属滝井病院 精神神経科
ちかまつクリニック

岡村宏美

発表者の背景

職業:臨床心理士 11年目

勤務先:大学病院 クリニック 企業

勤務内容:心理査定・自費カウンセリング

宗教的背景:幼少時～高校までカトリック教育

大学はプロテスタント教育

妹が中東在住 イスラム教の影響

特定への宗教への信仰:ない

発表者の背景

研究テーマ:宗教的自然観の研究

研究対象:青年期女性109名と中年期女性44名

自然の中で「大いなるなにか」を感じた経験の有無

経験有群にはその時の状況・感覚を自由に描画

研究結果概要

- 経験有りが86%
- 信仰の有無や自然環境の多少と関わりなく出現
- 経験有り群は加護観念・自然への畏敬の念多い

発表者の視点

- 特定の宗教が影響を及ぼした事例を経験
- 臨床心理士の立場から発言
- 臨床家の中でも特定の宗教に対する関心には大きな差があると感じている
- 発表者は臨床家が特定の宗教にも、宗教性にも開かれることに意味があると考えている

相談者の背景に宗教の影響

生育歴聴取時やカウンセリング中の語りに
宗教にまつわる言及がある場合丁寧に聴く必要

- 相談者本人が特定宗教への信仰がある場合
- 近親者が特定宗教への信仰がある場合
- 学校で宗教教育を受けた経験がある場合
宗教が本人の護りにも脅かしにもなる可能性

相談者の背景に宗教の影響

相談者本人が特定宗教への信仰がある場合

- どのような宗教か
- 入信の経緯(自分から?他者の薦め?)
- 入信時期
- 信仰にまつわる葛藤はあるのか
- 周囲の人の反応(肯定?否定?)
- 宗教に対する呼応性がどの程度あるか

相談者の背景に宗教の影響

近親者が特定宗教への信仰がある場合

- どのような宗教か
- 入信時期、経緯
- 近親者と相談者の関係性
- 相談者の反応(肯定的?否定的?)

主養育者に信仰がある場合、信仰のない家庭と比較して、宗教的影響が強い育ちとなる

相談者の背景に宗教の存在

学校で宗教教育を受けた経験がある場合

- どのような宗教か
- 教育を受けた時期
- 学校生活自体はどのようなものであったか

学校教育の場合は本人が宗教に対する関心があるかないかで影響の差が大きい

宗教に開かれることの意味

- 相談者も臨床家のいずれも宗教に対する関心の多さ少なさには差があると思われる
- しかし臨床家は多種多様な宗教や宗派の一般的特性を理解しておく必要がある
- 相談者にとって生活のうえでなんらかの宗教にかかわった経験がどのような意味をもつのか思いめぐらして聴く事が最も大切